



根 窓

2016
(平成28年)
10月1日

発行 ● 新島学園同窓会 中島信男
住所 ● 〒379-0116
群馬県安中市安中 3702
TEL ● 027-382-4073
FAX ● 027-382-4093

同窓生の皆さんこんにちは、会長として4年目をとめさせていただきます。13期の中島です。日頃より同窓会活動に関して皆様から頂いておりますご支援・ご協力に心より感謝と御礼を申し上げます。今年度も役員一同、力を合わせて頑張りますので宜しくお願い申し上げます。



ごあいさつ

新島学園同窓会
会長 中島信男

分とは言えません。今後、これらの課題を少しでも解決できるよう努力していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

新役員のごあいさつ



幹事 広報委員会
白田周一
30期 桐生市

本年度より同窓会本部幹事を仰せつかりました。30期白田周一です。

桐生根管会に属しております。桐生根管会と言えどもやはり今は無き清心寮から巣立った同窓生の集まりと言っても過言ではありません。

非常に結びつきの強い地区同窓会です。桐生根管会と本部、また、他の地区根管会とのパイプ役として精一杯頑張りますので同窓会員の皆様今後とも宜しくお願い致します。

役員紹介



会長 中島信男
13期 高崎市



副会長 文教委員会
那須秀樹
16期 高崎市



副会長 広報委員会
立見賢治
20期 高崎市



幹事 親睦委員会
柏木義雄
15期 新潟県長岡市



幹事 広報委員会
大塚真奈美
26期 安中市



幹事 文教委員会
湯本直也
28期 前橋市



幹事 広報委員会
大野晋吾
34期 富岡市



幹事 広報委員会
小森谷 剛
37期 高崎市



幹事 広報委員会
山田恵一
37期 安中市



幹事 広報委員会
横山慶一
38期 富岡市



幹事 広報委員会
高橋 司
42期 下仁田町



幹事 広報委員会
前田美佐
43期 高崎市



幹事 親睦委員会
荻原昌弘
45期 安中市



監査 文教委員会
熊井正憲
13期 軽井沢町



監査 親睦委員会
遠間徹也
13期 安中市



監査 文教委員会
小林栄郎
25期 高崎市



『平成の新島学園オートキャラバン隊』活動報告

学校法人新島学園
理事長
湯浅康毅

高橋拓也 (45期生)

永井均 (新島学園教諭)

櫻井俊光 (新島学園教諭・45期生)

勅使河原隆弘 (ハンディキャップ・レーシングドライバー)

また、報告会終了後、今回の取り組みについての感想等ございましたらお話しただけだとは思いますが、限られた時間でございですが、どうぞお付き合いいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

みなさん、こんばんは。この度は昨年引き続き、新島学園同窓会本部役員研修会に講師としてお招きいただきまして誠に有難うございます。

まずはじめに、繰り返してしまいましたが来年新島学園が創立70周年を迎えるにあたり、その意味について再度確認していきたく思います。

またこの度は、今年よりスタートしております、新島学園創立70周年記念プロジェクトに對しまして多大なるご理解をいただき、そして今回発表させていただきます『平成の新島学園オートキャラバン隊』の取り組みに對しまして、中島会長様はじめ立見&那須両副会長様、同窓会本部の皆様からは本当に心強いお力添えを賜り深く感謝申し上げます。

私は以前総会の席で今回の70周年の基本姿勢について、このように申しました。

さて、今晩は皆様方の貴重なお時間を頂戴いたしまして、この8月15日に行ってまいりました、平成の新島学園オートキャラバン隊の取り組みの一つであります『K4・GP』につきまして進捗報告をさせていただきます。

今から142年前・明治7年に新島裏がこの地に福音の種を蒔いたことが全てのきっかけであること。

■チームメンバー紹介
熊木義隆(19期生・新島学園評議員)
美濃部貴彦(45期生)

新島学園が迎える70周年とは単に70年を迎えただけでなく、新島裏の精神を約140年間育んできた源流を歩む中での70周年なのであります。

て、この関係性をずっと育んで
きていることがこの新島学園
独特の空気を作り出しており、
未だに我々は新島裏ムーブメ
ントの源流を歩み続けている
ということ。

今回の70周年では、学内的に
はこの中高、短大、法人本部を
まとめて学校法人としての一
体感と、再度『建学の精神』を
確認していくこと。

一方で学外的に『伝統校・
新島学園』として我々が共通認
識である文化や価値をブラン
ド化し、可視化していくこと。
そしてそれを適正に発信して
いくこと。

この中で他の学校ではでき
ない新島学園らしい取り組み
を、新しい価値づくりを加速さ
せていくこと。

そしてこれらの取り組みが
私が目指すこの学校のミッ
ションである『一生もの』を学
ぶことが出来る『人生の根底
に触れる学び舎』作りの大きな
一歩に繋がっていきたくと思っ
ております。

今後、この創立70周年記念事
業は3か年に分けて実施して
いき、今年の2016年度のプレ
・イヤー、そして来年のメイ
ン・イヤー、そして2018年
度のアフター・イヤーでありま
す。

この中で今年の5月には象
徴的なキックオフイベントと
して、『大豆の栽培プロジェクト』
をスタートしており、現在
大きく育った鞘の中の実が膨
らんできております。

今後この大豆を収穫した後
は、私が経営しております醤油
醸造元で醤油にしたり、南都さ
んという評議員の方は納豆を
製造されておりますのでそち
らで加工していただいて、日本
人の体を作ってきた大豆文化
について、また発酵文化につ
いて、そしてそれらの取り組み
から得られた成果物を地元で消
費できるように、郷土に還元で

きるような取り組みに育てて
いきたいと願っております。

そして第一弾のプロジェクト
として今回発表させていただく
『平成の新島学園オートキャラ
バン隊』や、明日第2弾のプロ
ジェクトの発表を礼拝堂で行う
予定となっております。

今後、12月まで毎月何かしら
の発表を行ってまいりたいと思
いますので、内容をフェイス
ブックに更新しておりますので
もしよろしければご覧いただけ
たらと思います。

この中で同窓会の皆様から
ご協力が必要となつてまい
ります。
是非、引き続きお支えをよろ
しくお願い申し上げます。

さて本題に入りますが、いき
なり感想から始まるのはおかし
いことなのですが、今回取り組
みはまだ始まったばかりで来年
の本番に向けての準備段階のト
ライアルな状態ですが、こんな
に奥が深く中身も濃く思っても
いないような広がりを感じて
いくとは想像もしていませんで
した。これは凄いことになる。

新島学園の恐るべき底力を実感
した、そんな心境です。
また一方で正直申しますと、
今回のプロジェクトを実行する
のは本当に、本当に大変でした。
総会の時にこのことに触れた時
も、『一体何考えてるの?』とい
う空気もありましたし、個人の
趣味と公私混同しているのは
は? というお叱りもたくさん
いただきました。

メディアの方も、今回はレー
スではなく『エコラン競技』な
んだと伝えても『レース』と表
現されてしまったことで、誤解
が生まれ悪いイメージが先行し
てしまい、余計に様々な方に
迷惑をお掛けすることにもなっ
てしまいました。
ただ、今回のプロジェクトは

予め実現するように導かれて
いたとも思うのであります。

それは約40年前にさかのぼり
ます。
この木彫りの熊ををご覧ください。



この熊は私の実家である、有
田屋の蔵の中にずっと置いて
あったものです。40年前の子供
のころ、たまに蔵から持ち出し
てはおもちや代わりに遊んだも
のですが、そのまま仕舞わない
で放置していたら両親から怒ら
れて捨てられそうになったこと
が何回もありました。

あまり大切にしていけないおも
ちゃだったから捨てられても良い
のかもしれないが、不思議と
守って蔵の中の定位置にしまっ
ていました。

時が過ぎて、今から9年前に
評議員としてまた母校と関わり
合いを持つようになり、その後
私が在学していた時期のみなら
ず始まりからいろいろと過去の
史実を調べるようになりまし
た。

既に皆さんがご記憶の様々な
学内外行事や新たな施設を備え
てきて現在まで至っております
が、その中で個人的に気になっ
て仕方がなかったのが、『新島学
園オートキャラバン隊』でした。
40年史、50年史にも触れられて
いるのですが、写真がたった一
枚のみ掲載されているだけで、
説明も数行だけの取り扱いで

らつと紹介されているのですが、
めっちゃくちゃ興味がありまし
た。

調べてみると当時の高校3年
生4名が夏休み中に日本一周を
目指して自動二輪(オートバイ
で旅をしたとのこと。

早速この計画を実行した先輩
方から直接お話を伺いたいと思
っていたのですが、4名のうち
3名は既に故人となつており、
残る一人は神奈川県小田原市に
お住まいとのこと。

その後、昨年の東京根柢会
でお目にかかることが出来、一度
詳しいお話をとお願ひしながら
時が過ぎ、今年の6月27日に法
人本部でようやく1年越しでお
目にかかることが出来ました。
まずこの写真ですが、一体4
名のうちだれがだれなのかわか
らない状態でしたが教えていた
だきました。

- 1959 (昭和34年)
- 新島学園オートキャラバン
- 隊メンバー【9期生(高校
- 3年生)】
- 吉田 洋 (故人)
- 湯川重男
- 中野勝利 (故人)
- 大竹 茂 (故人)

当日は私と三宅広報センタ
ー長が対応させていただきました、これ
まで限られた情報しかなかった
この取り組みの詳しい内容をお
聞きすることができました。
湯川先輩曰く、約60年前の
ことなのでほぼ覚えていないよ
うなことでしたが、今回わざわざ
当時の旅の記録を取ったアル
バムを持参してください、写
真を一枚一枚ながら記憶を一
つ一つ確認しながら、徐々に当
時の記憶を思い出していただき
ました。



1959 (昭和34年) 新島学園オートキャラバン隊メンバー【9期生(高校3年生)】
*左より 吉田 洋 (故人)、湯川重男、中野勝利 (故人)、大竹 茂 (故人)

お話を聞きする中で、まず
今回驚いたことは、生徒主体で
このオートキャラバン隊を企画
したということ。しかも思いつ
きではなく、入念に時間をかけ
て練られてきた計画であるとい
うことがわかりました。

このオートキャラバン隊のリー
ダーは、集合写真左端の吉田洋
先輩。

吉田先輩は約1年前の高校2
年生の時から旅の計画：旅の行
程、宿泊先の手配や各地での奉
仕活動等々を手掛けてきたそ
う。

今回の目的は、若者たちが日
本を一周したいという希望が原
点にありスタートしています。
そして日本を一周する中で新
島学園という学校を全国にPR
し、各地の教会・幼稚園等を訪
問し、宿泊させていただけなが
ら、持参した紙芝居をして奉仕
活動をしていようです。

*時間的な制約から日本一周は
叶わず北日本一周になったそ
うです。
(東京・仙台・青森・室蘭・
札幌・釧路・網走・旭川・秋
田・山形・会津・東京)

【新島学園50年の歩みより抜粋】
そして肝心のオートバイです
が、当時日本中のオートバイ
メーカーに本計画へのスポ
ンサー協力依頼の手紙を出して
いたそうで、その中でご協力い
ただいたのが、昌和製作所とい
うかつて静岡県沼津市に存在した
オートバイメーカー＆メー
カーより『昌和ライトクルー
ザー』という125CCの2サ
イクルオートバイを何と4台寄
贈していただいたとのこと
でした。

そして旅の途中で、各地域に
あったディーラーで車両のメン
テナンスもして下さるとい
うサポート体制であったというこ
とだったそうです。
メーカーサポートでこの

オートキャラバン隊が実現でき
たというのは本当に驚きです。
このオートキャラバン隊の活
動は訪問する先々で話題となり
新聞に取り上げていただいたそ
うであります。

他には、旅の途中で危ない体
験は無かったかお尋ねしたとこ
ろ、室蘭の小高い丘の上に立っ
ている教会を訪問した後に、帰
りの下り坂で勢い余って転倒し
てしまったそうです。幸い擦り
傷で済んだようですが印象的な
出来事だったそうです。

また約1カ月間一緒に旅をし
ていると喧嘩などもあったので
は? と想像しましたが、全く
無かったそうで、兎に角毎日
違った景色を走ることができ
たので退屈も一切しなかったと
のこと。むしろ一緒に旅をする中
で仲間を自然と思ひやるよう
になったそうです。

この1959年に実施した新
島学園オートキャラバン隊を今
現在改めて振り返ってみると、
この時の経験は湯川先輩がこれ
まで歩んできた人生の中で決
して欠かすことができない良い
経験だったと言いつつ切られました。

人は生きていく上で耐えな
ければいけない時が必ずあるが
この時の経験があることで乗り
越えてくるのが出来活かされて
いるとのことでした。

よく新島学園を巣立った先輩
たちが、新島学園は卒業してか
らその価値がわかる、とおっ
しゃるシーンに巡り会うことが
良くあります。

今回の湯川先輩の言葉には、
新島学園での学びというものは
決して座学だけでは学べない、
一生モノに触れることが出来る、
人生にとって大切なことを体験
できる学び舎であることが意図
的でなく伝統的に守られてきて
いることを知らされました。

そして、創成期においても今
回のような取り組みを提案され、
語り継がれていく伝統を継続し
て生み出している土壌が元々新

島学園には本質的に備わっているのだと感じることが出来ました。

最後に『平成の新島学園オートキャラバン隊』について以下のような応援メッセージをいただきました。

『事故が無いように、成功を祈っているよ』

『大きな失敗をしないように、小さな失敗を体験し学んで欲しい』

『失敗を経験しないと、成功は無い』

改めて申し上げますが、この計画は生徒たち自ら計画・実行したというその行動力に驚くばかりであります。

冒頭申し上げたこの『木彫りの熊』に話を戻しますが、ふと裏返しにして見た時に、



上から

『湯浅様』

『1959年8月7日記念』

『オートバイ旅行』

と彫っており、それを見た瞬間この木彫りの熊は、オートキャラバン隊のお土産として北海道から一緒に旅をしてきたものだと悟ったわけです。

まさにこの木彫りの熊と、オートバイにまたがる4人の若者達の写真の意味が繋がった時

に、40年来不思議と捨てなかつた理由というのは、この新島学園オートキャラバン隊の歴史とを繋げる証品として守られてきたんだと確認したわけであります。

そして、この事実を掘り下げ、新島学園の文化としてしっかりと伝えていく責務があること。

そしてこの歴史を次世代に活かしていくことは新たな新島学園の伝統づくりに大きく貢献してくれる大切な要素になると確信したわけです。

今回の『平成の新島学園オートキャラバン隊』にはこの歴史と関係性があつてはじめて実現できたプロジェクトなのであります。

このような学園の歴史がある中で、今回のプロジェクトはかつて4人の生徒たちが新島学園のことをPRするために自動二輪で全国を駆け巡った伝説のプロジェクト『オートキャラバン隊(1959年実施)』の精神をオマージュし、新島学園関係者で『TEAM753太(チームしめた)』を特別に編成し、かつての自動二輪から自動4輪に変えて、来年創立70周年を迎える節目の時を全学上げてお祝いすると共に、新島学園の新たな取り組みを学内外に発信する目的で企画させていただきました次第です。

次に今晚の本题であります、今回我々が取り組んだ新島学園創立70周年記念プロジェクト第一弾『平成の新島学園オートキャラバン隊・K4・GP参戦プロジェクト』の概要についてご説明させていただきます。

今回私どもが挑戦させていたんだいたK4・GP(『K4・GP』のK4は軽自動車・4輪の意味)とは、毎年8月に富士スピードウェイを舞台に開催されている軽自動車で行うモーターレースになります。参加車両

が200台、参加者が2000人を超える日本一のエコラン競技として有名です。通常のタイムを競うスピード競技ではなく、いかに燃費良く速く走るかを競うエコランレーススタイルを特徴としています。

◎速さだけを競うスプリント形式の競技ではなく、如何に燃費効率よく、無駄なく、速く500km・5時間を完走できるか問われる競技

◎チーム力が問われる総合工コラン競技：戦略をうまく立てないと完走さえもできない。(特に今年は支給燃料が少なくなつた)

また、今回の取り組みを行う理由については5つの考え方があります。

(1)種を誇く

今回の創立70周年事業のテーマであり、まさに過去の史実を基にした新しい種まきにあたる。また今回はオール新島学園関係者で組織したチーム編成になっており、この意味は今回の周年事業の別の意味である、新島ファミリーから新島コミュニティにしていこうと繋げていく取り組みでもあります。(同窓会の活性化と後援会設立の可能性)。

理事長、評議員、現役教師、現役PTA、現役学生と生徒、OB&OGが想像も出来ないような新しい企画に関わることでこれまでの学園の取り組みに対して、従来の漠然とした協力依頼より『具体的に応援する明確な意味』を作りその交わりの中でより深い意味での一体感を育むことに目的をおいております。

(2)理事長ビジョンの基本方針

新島学園での学びは一過性では無いと思います。新島学園とは人として必要なことを学ぶ場所であると思います。

私は理事長に就任した際に目指す学園像として、一生モノに触れることが出来る学び舎作り行っていたいと言わせていただきましたが、まさに今回のプロジェクトは一生モノの学びを体験できる特別なプロジェクトであります。

また、学校法人新島学園として現在取り組んでおります第3次中期経営計画『No Place like Niihama』の中でお示している通り、『伝統を守ること&伝統を活かす』を具現化したプロジェクトでもあります。

新島らしさとはある意味他の私学では体験できない学びを体験できる場所にあると思っております。

*昨年の講演でも申し上げた通り、伝統があるところが新しい取り組みをすると、それはまた新たな歴史となり『深み』になる。

(3)新島らしさの可視化

多くの学園関係者が新島学園の魅力について、何だかわからないけど魅力的と言いのを耳にすることが多くあります。これは新島学園には様々な文化があるということを指します。

今回の『平成の新島学園オートキャラバン隊』はまさに新島学園に根付く自動二輪&四輪の文化を可視化したプロジェクトであります。

これまで各期ごと、地域ごとの交わりから新島学園の文化をテーマ別に分け創世記の諸先輩方から卒業したたの卒業生と一緒に取り組むことが出来るというこれまでに無かつた文化を可視化していくことを大切にしたい取り組みとなります。

こういった可視化していくプロジェクトを具現化していく過程で新島学園のブランディングをしっかりと確立していきたい。

その可能性をしっかりと引き上げていきたいと思っております。

(4)教育研究教材

今回エコランに使用する軽自動車は、活かした教材としても役立てたいと思っております。

具体的には、エンジン・ミッション・ボディの構造や、今回はエコランを主体としたレースなので、燃費の計算や軽量化によってどれくらい燃費に貢献するのか？ ボディを強化していくことでどんな運動性能が上がるのか？ 等々今回の活動を通してデータをとり、その結果を授業に活かしていこうと計画しております。

また、進学面では、具体的には群馬大学工学部から(株)SUBARUコースや、同志社大学工学部からホンダ技研工業(株)コー

スを目指すような未来の車文化に貢献できるような人材を輩出する一助になればと思います。また今回は、新島学園短期大学も一緒に取り組む予定ですので、今回の体験が就職活動に非常に有利に働くことが期待されます(カーディーラーに就職希望者有り)。

(5)70周年記念車&広報車

今回の車は3つの使用目的があります。

一つ目はK4・GPに参加する車両として、二つ目は教材として、そして三つ目は、70周年記念車として、広報車としても使用します。

生徒募集のために小学校、中学校、学習塾に向向たりするのは勿論、60年前にキャラバン隊のように新島裏ゆかりの地にこ

の車で訪ねて当地で交流を深めたりしたいと思っております。また様々なモーターイベントで出走&展示要請も出てくるかと思っておりますので対応していくことも考えています。

さて、今回の取り組みの意味とその理由を整理し、限られた時間の中で準備を重ねてまいりました。正直出走当日までギリギリの調整を強いられましたが、様々な方の支援とご協力により何とか間に合わせる事ができました。

その経過については細かく述べることはしませんが、本日は時間の関係から8月15日にエントリートした『K4・GP 2016 FUJI 500km』の実施概要についてご報告させていただきます。

K4-GP 2016 FUJI 500km実施概要

- 出場 K4-GP 2016 FUJI 500km
■場所 富士スピードウェイ (1周4.536km)
住所 〒410-1307 静岡県駿東郡小山町中日向694
電話 0550-78-1234
■日時 2016年8月15日 (月)13時~18時
■天候 曇りのち雨
■路面 セミドライ~ウェット
■クラス GP-III [NA換算850cc以上 過給機付き/量産ベースのハコ車(HV車両含む)]
■出走数 74台 (GP-I~GP-Vクラス)
■走行会 7月9日(土)+ライセンス講習会、8月11日(木・祝)、8月15日(月)



TEAM753太2016 メンバー構成

- 湯浅康毅 (チームリーダー・ドライバー) 熊木義隆 (サブリーダー・ドライバー)
久保田隆 (ドライバー) 美濃部貴彦 (ドライバー)
勅使河原隆弘 (スペシャルアドバイザー・ドライバー) 永井 均 (ピット)
櫻井俊光 (ピット) 高橋拓也 (ピット&メカニック)

753太号 (スバル・ヴィヴィオef-s改)

- スバル・ヴィヴィオef-s改 (FF・5MT・バンタイプ)
外装デザイン担当: 武者 寛 (20期生・70周年シンボルマーク製作者)
K4-GP出走経験車 競技車&公道走行可能な軽自動車 (ナンバー付き: 753)
乗車定員: 4名→2名
ボディタイプ: 3ドアハッチバック
エンジン: EN07型 660cc 直4 DOHC スーパーチャージャーに変更
最高出力: 42ps/7000rpm→64ps/7500rpm

最大トルク：5.3kg・m/4500rpm→10.8kg・m/3600rpm
 駆動方式：FF,トランスミッション：5MT,LSD：なし（軽量化のため）
 サスペンション：前輪：L型ロアアーム・ストラット式独立懸架
 後輪：デュアルリンク・ストラット式独立懸架
 ブレーキ形式(前&後)：ディスク(リア：ドラムより変更)
 ホイール/MINILITE(155/55R14)
 タイヤ：ダンロップ・ディレッツァ03G(Sタイヤ)165/55R14
 補強：ロールゲージ(7点)
 軽量化：700kg→550kg *150kgの軽量化
 *車両は利根電気工事(株)様より提供
 *TEAM MINILITE 整備の車両



TEAM753太サポーター&オフィシャルスポンサー

サポーター(個人・法人)14件
 オフィシャルスポンサー(個人・法人)12件 合計26件
 特別協賛：加勢エミ子、(株)キャロッセ、(株)利根電気工事
 協賛：YODA RALLYING、MINILITE(株)ショウダクリエイティブ)
 阿久津自動車整備工場、ガレージスチールヘッド

【今年のチーム目標】
無事故・完走
【結果】
 K4-GP 2016 FU
 J1500km GP-III
 6位入賞(総合13位)

さてこのような実施概要でギリギリの調整の中、心落ち着かず、チームメンバーの気持ちもまたまらない状態での初挑戦となったわけですが、結果にありませうに思いもよらないような最良の結果を得ることができました。しかもこれまでの『K4-GP』の歴史上、初出場でも我々新島学園エコーランチーム『TEAM753太』だけでそのうであります。

創立70周年に向けて早くも準備を進めておるところであります。まず今年度の取り組みについてチーム内で反省会を行い、いろいろと意見を重ねております。

以下振り返りを行う中で反省点、今後の課題について簡単にまとめたものがありますのでご確認いただけたらと思えます。

良かった点

- 当初の目標達成(無事故・完走)
- 新島学園らしさの可視化(70周年の目標のひとつ)
- 第3期事業計画『No Place like Niijima』の実現
- 創立70周年記念プロジェクト

改善する点

- 事前車検時に受けた修正事項に対する迅速な対応
- 積載車の手配(故障・事故による不動時への対応のため)
- とっさの時の行動力の確認(新島学園の文化)

プロジェクト

- 創立70周年記念プロジェクトとしての学内外での認識の深化本プロジェクトとコンセプトとの整合性の再確認

TEAM753太

- 役割分担の必要性、スケジュールの立案・管理・運営、ドライバーのエコーラン技術の向上、ドライバーの出走順番の再検討、ドライバーの更なる減量、時間短縮への対策(ピット作業・ドライバー交換時、燃料給油タイミニングへの連携等)、コスチュームの検討

753太号

- メンテナンス先の確保(症状・整備工場の得意分野別)
- 更なる軽量化(リアサイド&リアガラスのアクリル化、リアハッチのエポキシ化、ホイール等)
- 最適化(GPSロガー付きオンボードカメラ、バケットシート、シートベルト)
- 取り付け金具、ウインドウネット、燃費計、燃料タンクの増設?等)
- 整備(トランスミッションのオーバーホール?等)
- 持ち込む工具類の確認
- 持ち込み備品の確認(ピットレーン用テント、サインボード、PC&モニター、コード、宣伝用のぼり、移動用自転車&原付バイク、物干し道具、S字フック等)

TEAM753太サポーター&オフィシャルスポンサー

- チーム単位での積極的な広報&更なる募集応援グッズの制作返礼品の見直しと対応

教育研究教材としての立ち位置

- 法人本部の事業として始めている(私立学校法、私学振興助成法との兼ね合いから中学校の学校会計とは別扱いになっている状態)
- 如何に教育の現場にこの取り組みを活かしていくかがカギ
- 如何に生徒&PTAと一緒に取り組むことが出来るかが大切
- この新たな『種時き』を学内に根付かせ、理系強化の一翼に育ってもらいたい
- 夢の実現のための就職先を見据えた進学指導体制を確立していきたい
- 更なる地域社会との実りある連携を知の集団として模索していきたい

その他オートキャラバン隊活動について

今後のプロジェクトは、かつて4人の生徒たちが新島学園のことをPRするために自動二輪で全国を駆け巡った伝説のプロジェクト『オートキャラバン隊(1959年実施)』の精神をオマージュし、新島学園関係者で『TEAM753太(チームしめた)』を特別に編成し、かつての自動二輪から自動4輪に変えて、来年創立70周年を迎えるを全学上げてお祝いすると共に、新島学園の新たな取り組みを学内外に発信する目的で企画させていたのですが、今回新たな取り組みに挑戦する中で新たな発見を見つけたことが出来たり、今後の広がりにしても非常に面白い展開が繋がってきておりますので、その点についても触れてみたいと思います。

オートキャラバン活動

かつての訪問先に再訪問、新島裏ゆかりの地へ訪問。2016年10月中旬に試走予定。新島裏岐路パトナリレー用車両。来年の記念式典に合わせて計画の中

MINILITEチームとの連携について

TEAM753太協力チーム。今年の1000km GP-IIIクラス優勝チームMINILITEさんとの協力なしにはこの競技に参加できなかった。辰己英治(STI株式会社モータースポーツPJ室長) *MINILITEドライバーの一人 *スバル・テクニカ・インターナショナル・車両開発の神と

呼ばれる人物 *講演会の予定(世界の第一線で活躍している人物の生の声に触れる) 今年のドイツ・ニュルブルクリンク24時間自動車耐久レースでSTIチームは優勝。辰己さんはそのチーム総監督。

(株)キャロッセについて

今回の取り組みで真っ先に報告に伺った先で、今回の取り組みを最も応援していただいたスポンサーの一つ。

創業者であり、ラードライバーであり、新島学園16期生である加勢裕二(故人)先輩は新島学園の文化の一つである『モーターリゼーション・モータースポーツ』を創り上げてきた伝説の人物です。

奥様・加勢エミ子会長は以前より新島学園の歩みを多方面にわたり支えていただけてきたが、今回の『新島らしさの可視化』として計画された本プロジェクトについて、まさか新島学園でこのような取り組みが始まるなんて加勢(裕二)は想像しなかったでしょう、ととても喜んでおられました。

加勢夫人は、若い生徒さんにモータースポーツに少しでも親しみを持ってもらえたら嬉しいとおっしゃっておられました。

今回の取り組みは長年新島学園をお支えいただけてきた加勢裕二先輩とご夫人に対して新島学園としてささやかながら感謝の気持ちを表したプロジェクトでもあります。

また、今回(株)キャロッセ様からは世界中よりエントリーが集まるラリー競技へのボランティアスタッフとしての参加への可能性について意見交換をさせていただきました。こちらで全ての英語なので、座学ではない、実践的な英語を学ぶことが出来る機会もあるとのこと。グローバル教育を進めている本学の

孀恋・鹿沢キャンプガーデン

市川 保 (13期) 市川 幸介 (38期) 市川 哲也 (43期)

〒377-1614 吾妻郡孀恋村大字田代1017
 ☎ 0279-98-0611
 FAX 0279-98-0614
 http://www.kazawa.com

株式会社 テクノアート

代表取締役 嶋方 徳郎 (13期)

〒370-0073
 高崎市緑町二丁目12-1
 ☎ 027-362-9811
 FAX 027-362-1090
 http://www.teweb.co.jp

株式会社 ボルテックスセイグン

代表取締役 武井 宏 (13期)

〒379-0133
 安中市原市432
 ☎ 027-382-3333
 FAX 027-382-4792
 http://www.vortex.gr.jp/

たフリーズですが、こんなにも長く、しかも新島学園のような特別な学校に勤められるとは思ってもみませんでした。これもひとえに同僚の諸先生方や新島学園で出会った生徒の皆さん、保護者の皆さまの温かいご指導の賜と心より感謝申し上げます次第です。

この3月末をもって退職いたしました。40年間を振り返りますといろいろなことが思い起こされます。

就職すると清心寮のOBということもあって、今は無き岡部館三郎先生や石田愛子先生のご指導の下、清心寮の舎監を務めました。

昼は学校で授業や部活指導、夜は清心寮で寮生と寝食を共にする生活で、毎日が修学旅行のようでした。私生活部分のほとんど無い暮らしは若い身空に馴染みもありましたが、貴重な経験・学びの機会でありました。曲がりなりにも40年間勤められたのは清心寮での舎監としての経験があればこそと言えます。

岡部先生、石田先生に、舎監だか寮生だか分からないような若僧の自分を面倒みていただき、また改めて私は偉大な先輩教師の皆さまに恵まれたことを痛感しております。

教師の仕事は授業だけでなくクラス運営や部活指導、校務分掌等々多岐にわたりますが、若い頃は部活指導にウエイトが置かれていました。部活のために学校へ行っていたような時代もありました。

大学時代まで趣味のスキーを続け、ウインタースポーツには多少自信があったので、夏は卓球部、ソフトテニス部、陸上部などを担当し、冬はスキー・スケート部のお世話をさせていただきました。冬のスキー・スケート部では部員たちの頑張りや関東大会やインターハイに連れて行ってもらいました。部員

たちと一緒に汗を流した思い出は私の生涯の宝物となりまし

また、クラス運営では7学年の学級担任をさせていただき、6年間持ち上がり3回、高校3年間の持ち上がり2回ありました。とりわけ中一から高三まで担任し、卒業生を送り出す時には、卒業生一人ひとりが自分の親子兄弟のような気持ちになったことを懐かしく思い出します。

よく教師は授業と学級担任、部活指導ができて一人前と言われますが、私の場合、授業についてはあまり自信がありませんでしたが（すみません教師にとつて最も大切なものなのですが）、学級担任・部活指導の分野においては何とか頑張れたかな、と勝手に思っております。しかしながら授業・学級・部活の3点セットからすると、私は最後まで三分の二人前教師でありました。

五十代の半ば、そろそろ教師生活の締めくくりを迎える頃、当時の市川校長先生から母校である同志社に戻って新島先生や同志社と新島学園について学び直して来い、というありがたいお話をいただきました。

2009年の春学期、約半年間同志社大学神学部研修員という形で、新島先生研究の第一人者である、当時同志社大学神学部教授 本井康博先生の下で学ばせていただいたことは新島学園教師時代最良のご褒美でした。

その後、同志社大学を中心とした「キリスト教主義学校連携ネットワーク」において、全国のキリスト教主義学校との交流に務め、同志社との連携に動き回ったものの、与えられた褒美に十分報いることができず、次第です。

せめて同志社研修の記念にと、



バングラディッシュの子どもたちと



寺子屋学校の授業風景

その昔新島先生が弟子の徳富蘇峰らを伴って安中へ里帰りした中山道を、研修最後の夏休み日に自転車で約500kmを3泊4日で群馬まで帰省したことが懐かしい思い出です。

それから忘れられない体験は2011年3月11日の東日本大震災です。地震発生時私は62期の高校1年生約220名と共に羽田空港の上空におりました。

沖縄修学旅行の帰路、さあこれから着陸という時に地震が発生しました。羽田空港は閉鎖され全国の主な飛行場はパニック状態で、国土交通省の最終判断は離陸した飛行場に戻れ、というものでした。

給油場所を求めて彷徨し、関西空港上空で旋回しながら順番待ちでようやく給油、沖縄の那覇空港に引き返しました。日本旅行社の努力でようやくたどり着いた那覇のホテルで観た東北地方の悲惨な映像は衝撃的でした。幸いにも翌日の臨時便に乗ることが出来ましたが、羽田空

港からの帰路、首都高速から見えた先端の傾いた東京タワーの姿は震災の揺れの大きさを物語っていました。

もう一つこの年に貴重な体験をすることが出来ました。

ACEF（アジアキリスト教教育基金）のバンングラディッシュ・スタディーツアーに参加したことです。バンングラディッシュはアジア最貧国の一つで、貧しさから公立の学校に通えない子供たちのために寺子屋（小学校）を贈るキリスト教団体の企画でした。電気も届いていない山村の掘っ立て小屋のような寺子屋学校で、はだしの子供たちが目をキラキラさせて勉強している姿は、私たちが豊かさの中で忘れかけてしまった大切なもの思い出させてくれました。

2011年という年は私にとりましても、大ききでなくその後の生き方を変えざる年となりました。

振り返って、私は新島学園のため何ができただのか、と問われると考え込んでしまいます。素晴らしい大先輩の先生方のご指導をいただきながら、また温かい同僚の先生方と共に、特別な学校新島学園で、特別な生徒たちと共に過ごすことができたことにただただ感謝するばかりです。

私にとつて特別な学校、特別な生徒たちとは、他の学校にはない、新島学園ならではの校風とそれを体現している生徒たちを意味します。そんな新島学園に生徒として、教師として延べ43年間も過ごせたことは私の誇りです。

最後になりますが、生徒・教師として新島学園は卒業いたしました。新島学園時代に教えていただいたこと、学んだことを

三島先生の訃報

新島学園中学校・高等学校の教員（数学）であられた三島（旧姓上野）みつゑ先生（在職期間…1975年4月～2016年6月）が、2016年6月5日、64歳で召天されました。

心から哀悼の意を表するとともに、神の御許に召された三島先生が安らかな眠りにつかれますことを心よりお祈り申し上げます。





2016年6月11日 45期生最後の授業にて 45期卒業生の皆さんと

「それからの」人生で少しでも生かして行ければと願っています。新島学園と学園に連なる同窓生をはじめとする関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。拙い文章を終わりにします。

株式会社 まるいち

代表取締役 田口 慎一郎 (38期)

〒370-2316 富岡市富岡1340

☎ 0274-63-1331
FAX 0274-63-1333

<http://www.oamaruichi.co.jp/>

株式会社 ヤマハチクボニワ

代表取締役 久保庭 哲夫 (37期)

〒379-0116 安中市安中2丁目5-15

☎ 027-381-0435
FAX 027-382-6364

<http://www.yamahachi.info/index.shtml>

有限会社 小森谷商店

代表取締役 小森谷 剛 (37期)

〒370-0873 高崎市下豊岡町575

☎ 027-323-2530
FAX 027-323-8108

<http://komoriya.biz/>

国際警備 株式会社

代表取締役 山崎 健 (37期)

〒370-0046 高崎市江木町1525

☎ 027-327-5500
FAX 027-327-7799

<http://www.kokusai-security.com/>

株式会社 晃月人形

代表取締役 渡邊 忍 (9期)
専務取締役 渡邊 泉二 (13期)
渡邊 聖也 (44期)

〒370-0841 高崎市栄町15-20

☎ 027-327-2223
FAX 027-327-8055

<http://www.kougetsu.co.jp>

株式会社 ウエハラ

代表取締役 上原 康廣 (21期)

〒370-2606
甘楽郡下仁田町川井20

☎ 0274-82-2083
FAX 0274-82-2095

<http://www.uehara.cn/>

割烹旅館 下仁田館

高橋 司 (42期)

〒370-2601
下仁田町下仁田364

☎ 0274-82-2031
FAX 0274-82-5272

<http://www.shimonitakan.com>

しののめ信用金庫

会長 瀬下 信
理事長 横山 慶一 (38期)

〒370-2316 富岡市富岡1123

☎ 0274-62-3111
FAX 0274-63-6086

<http://www.shinonome-shinkin.jp/>

第38回同窓会 ゴルフ大会報告

■日時 平成28年9月18日(日)
■会場 ローズベイカントリークラブ(安中市)

9月18日(日)、安中市にあるローズベイカントリークラブにおいて、秋雨降りしきる中、ゴルフ大会が開催されました。しかしながら、雨の中、全組順調にスタートしたものの、強雨の為、大会本部の判断により、残念ながらハーフラウンドのみプレーとなりました。

今年は31期・37期の同窓生が幹事を担当し、幹事期の皆さまより積極的なお声掛けの結果、参加人数は138名(うち女子14名)と昨年一昨年同様、盛大な大会となりました。

表彰式パーティーでは、プレーから参加された中島信男同窓会会長・立見賢治副会長をはじめ、湯浅康毅理事長にもご出席を賜り「創立70周年記念プロジェクト」など学園の近況を交えたご挨拶をいただきました。

また、幹事の円滑な式進行の中、学年を超えた交流も多数見受けられ、盛大に執り行われました。たかさんの同窓生からの協賛賞品をご提供いただきました。

本大会運営におきまして、協賛賞品提供や多大なるご協力いただきました同窓生の皆さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ごさいいます。

来年の「同窓会ゴルフ大会」開催は、長年に渡りご協力をお願いいただいたローズベイカントリークラブ(今年9月30日閉場の為)から、2017年9月10日(日)「レイクウッドゴルフクラブ富岡コース」に場所を移し行う予定です。

幹事担当は32期・38期生の皆さまです。今年ご参加の皆さまはもとより、特に30・40・50期代の若手の皆さまの積極的なご参加を期待しております。



結果報告(敬称略)

優勝	荻野了一(29期)	アウト36*	イン43	ネット70.6
女子優勝	山口佳子(29期)	アウト36*	イン51	ネット73.8
ベストクロス	松井誠(10期)	アウト36	イン36*	クロス72.0
準優勝	松井誠(10期)			
3位	加藤賢(37期)			
4位	土屋広之(25期)			
5位	野田典靖(31期)			
6位	熊井正憲(13期)			
7位	松澤祥晴(10期)			
8位	武井宏(13期)			
9位	福島克彦(11期)			
10位	一萬田民夫(14期)			

注※) 強雨による0.5ラウンドのみのプレーの為、スコア集計の都合上、もう半分のスコアは【36】となっております。

各地区根笹会

安中

安中根笹会総会報告

安中根笹会 会長 茂木正毅

安中根笹会の第5回(平成28年度)総会、懇親会が7月2日(土)安中市内の並木苑で、ご来賓・会員の皆様方123名のご出席をいただき賑やかに開催されました。

石井事務局長の司会で茂木会長の挨拶、そしてご来賓として湯浅康毅理事長様、岩間秀彬学校長様よりご祝辞をいただきました。

議事は平成27年度事業・決算報告があり、監査報告が田島龍一監査よりなされました。平成28年度事業計画、予算案についてご審議をいただき、原案通り承認されました。今年役員改選があり、永年ご苦労いただいた副会長の金井伊恵里氏が退任され、新しく田中美香氏が選任されました。各期の監事のうち5名が交代になりました。また、48期から55期の間で5名の幹事が市外に転居されており、その後任人事は未定との事でした。

続いて母校からの報告が岩間校長・岩田雅明短大長様よりなされました。母校のユニークな教育として、グローバル教育のこと、IT活用による学習のこと、特色ある授業などが報告され母校の最近の状況を知り、その発展している様子に頼もしさを感じました。

続いて懇親会では、今年新島学園弦楽団の皆さまに参加をしていただき、その演奏の下全員で校歌を斉唱した後、弦楽団員による弦の音色を楽しむことが出来ました。学園の新しい、若々しい息吹を感じ清々しい思いがしました。有り難うございました。

そして中島信男同窓会長からご挨拶をいただき、懇親会に入りました。今年例年ありました講演会ではなく、その時間を会員相互の懇親を深めていただく機会とさせていただきます。賑やかな中、各所で新島ファミリーの輪が出来て、先輩後輩との懐かしい話題に花が咲き、いろいろな情報交換も出来て楽しい時間を過ごすことが出来ました。

閉会は松本尚武副会長による学生歌一番を皆で元気よく斉唱し無事終了することが出来ました。来年も7月第一土曜日に集まることを約束して散会となりました。これからもどうぞよろしくお願致します。



桐生

桐生根笹会からの報告

桐生根笹会 会長 金子豊

同窓生の皆様こんにちは。平成28年3月から桐生根笹会の会長を務めることになりました27期生の金子と申します。前会長の玉上常雄先輩には、初代会長としてご尽力を賜ったこと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。永年にわたり大変ありがとうございました。

さて、会員数約120名を数え、清心寮OBを中心に結束の固い桐生根笹会ですが、昨今は深刻な課題に直面しています。少子化ならぬ少同窓生化がそれであり、とある時期から桐生地域出身の卒業生が激減。過去10年間の新規会員増は3名。ちなみに直近の5年間に至っては増員0名です。

その結果、会員の平均年齢は一年経てば一歳上がる体質となっております。このままでは当会の先細りは必至であり、数十年後には存続が危ぶまれる危機状況にあります。

要因としましては、桐生地域の経済低迷によるもの、あるいは少子化等の社会的要因が挙げられますが、最大の要因は2006年3月の「清心寮」の閉鎖にあると考えます。寮閉鎖と新規会員数の極端な減少の時期が符合することから関連性は明確です。確かに県の東端から県西部に横断する通学は容易ではありません。

しかしその一方で、まったく別の見方もできます。もし私たち同窓生全員が地域社会においてもっと高い評価を得ていたならば、あるいは学園創業の精神のもと上記要因を跳ね除けるだけの社会的活躍をしていたならば、さらに多くの子供達が魅力ある学び舎を目指していたことでしょう。学園OBとしてこのよ

桐生根笹会
平成28年3月5日
於…桐生プリオパレス



吾妻

吾妻根笹会 事務局 豊田明美

みなさん、こんにちは。新島学園学校関係者様並びに同窓会組織の皆様方には日頃より大変お世話様になりまして誠にありがとうございます。

吾妻根笹会は、田村守会長(6期)のもと、平成14年に設立をいたしました。早、2年半が経ちました。

吾妻郡(中之条町・高山村・東吾妻町・長野原町・嬭恋村)は、3町2村からなり、総面積1278.55km²、人口は約56000人です。なかなか、皆様に報告できる活動もございませんが、吾妻郡は、こ



富岡かんら根笹会

富岡かんら根笹会 事務局
2015年11月14日ホテルアミューズ富岡にて第5回富岡かんら根笹会を開催させて頂きました。



れからの人口推移の中でも減少率が極めて高いエリアとなっております。その危機感を持ち、さらなる地域の発展には、広域連携の考え方が非常に大切に...

今年も7月1日、有楽町プレスクラブにて総会、懇親会を行いました。各期幹事方々の尽力で、140名を超える参加者となりました。

東京 松本政之
東京根笹会 会長
日々思いやりの心で生きて行こう



2016年は新島学園創立70周年のプレイヤーと言う事で富岡かんら根笹会としても多めに盛り上げて行きたいと考えております。



別テロも頻発しており、日本国内においても残虐な殺人事件が、毎週のように起き、誰もが心を痛めています。21世紀物質文明の進歩が、豊かき、幸福をもたらす、と期待したが、厳しい格差を生んでしまったことも事実です。

2015年度同窓会決算報告

一般会計 2015年度 収支決算書 (2015.4.1~2016.3.31) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 予算差異, 備考. Rows include 前年度繰越金, 同窓会費収入, 名簿代収入, etc.

一般会計 2016年度 収支予算書 (2016.4.1~2017.3.31) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 前年度決算額, 予算額, 増減, 備考. Rows include 前年度繰越金, 同窓会費収入, 名簿代収入, etc.

注: 予算差異の-は、予算未達成を意味する。

収支決算 財産目録

Table with 2 columns: 資産の部, 決算額. Rows include 現金, 普通預金, 繰越金残高計(a), etc.

予算案 財産目録

Table with 3 columns: 資産の部, 前年実績, 予算額. Rows include 現金, 普通預金, 繰越金残高計(a), etc.

根笹基金 2015年度 収支決算書 (2015.4.1~2016.3.31)

Table with 3 columns: 収入, 決算額, 備考. Rows include 前年度繰越金, 寄附金収入, 利息収入, etc.

根笹基金 財産目録

Table with 2 columns: 資産の部, (単位:円). Rows include 普通預金, 定期預金, 正味財産.

Table with 3 columns: 支出, 決算額, 備考. Rows include 褒賞費, ファイル代, 雑費, etc.